

【例題 1】

アッシュ（Asch, S.E.）は、架空の人物の特徴をいくつかの特性語によって提示し、そこから印象を形成させるという手続による一連の実験を行った。この実験に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 初めの方に提示された特性語が最終的に形成される印象に大きな影響を及ぼすという新近効果を見いだした。
- イ. 個々の情報に基づく印象が寄せ集まって全体的印象ができるのではないことを示した。
- ウ. 同じ特性を組み合わせて人物を記述する場合、その提示順序を変化させても同じような印象が形成されることを明らかにした。
- エ. 同じ特性語であっても、他に提示される特性語が異なると、その文脈によって意味が変わることを示した。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

（正答 4）

【例題2】

ベイトソン（Bateson, G.）が唱え、家族療法に影響を与えた「ダブルバインド」の説明として妥当なのはどれか。

1. 両親世代の問題が子供の世代に伝播^{でんぱ}される家族投影過程が、多世代にわたり生じることである。例えば、父親の持っている自分の母親に対する問題が、形を変えて、子供の母親に対する問題となっていることをいう。実際の治療では家系図を用いることもある。
2. 否定的な意味を肯定的な枠組みに変えることである。例えば、「子供の問題に無関心な父親」と不満を持つ母親に対し、「口出しせずに見守ることができている父親」と表現を変えることで情緒的色彩を構築し直し、問題解決の糸口にする。
3. 家族のサブシステム間の境界線である世代間境界が侵害されることである。例えば、いわゆる母子密着は夫婦サブシステムと子供サブシステムの境界が不明瞭になったことによって生じた事態と考えられる。
4. 二者関係で、一方が言語レベルであるメッセージを発しつつ、非言語レベルではそのメッセージと衝突するメッセージを発することである。例えば、手をつなごうとした子供に、母親が身をこわばらせ、子供が手を引っ込めると、「私のこと好きじゃないの？」と母親が尋ねるような状況である。
5. 症状や行動をあえてやってみるように指示することである。指示に従えば症状のコントロールができたことになり、従わなければ症状をあきらめることになるので、いずれにしても症状の克服に結び付くことになる。

（正答 4）

【例題 3】

『高齢社会白書（令和 5 年版）』（内閣府編）による 65 歳以上の者の生活環境に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 65 歳以上の者の 6 割以上が賃貸住宅に居住している。
- イ. 養護者による虐待の種別を見ると，身体的虐待が最も多くなっている。
- ウ. 特殊詐欺の被害者の 8 割以上が 65 歳以上の者である。
- エ. 2015 年以降，65 歳以上の者の交通事故死者数は増加傾向にある。

- 1. ア，イ
- 2. ア，ウ
- 3. イ，ウ
- 4. イ，エ
- 5. ウ，エ

（正答 3）